

平成 27 年 5 月 16 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
平成 27 年度第 5 回

六中観

今日は最初に、猪瀬理事長から要望がありました六中観を解説致します。

六中観

忙中閑有り

苦中楽有り

死中活有り

壺中天有り

意中人有り

腹中書有り

安岡正篤先生をご存知ない方には、私は、こう紹介をします。安岡正篤先生の御葬儀では、「内閣総理大臣ご経験者の方々」と指名されて歴代の総理大臣がぞろぞろと並んだそうです。そのような方ですから、日本の命運を握っていたかのように見える時期がありました。GHQが日本に入って来た時に、アメリカが相当気に入ったのは安岡正篤先生でした。「日本は天皇陛下の動向によって国民が動く。天皇陛下を動かすには、安岡正篤を動かせ」という指令を受けて、GHQが安岡正篤に会いに来たわけです。そして、土足で上がるような将校が、帰る時には「先生」と敬って帰っていったという逸話があります。また、佐藤栄作首相は対外文書を必ず安岡正篤先生に目を通して貰ってから出していました。

その安岡正篤先生が「六中観」について、「私は平生窃かに此の観をなして、如何なる場合も決して絶望したり、仕事に負けたり、屈託したり、精神的空虚に陥らないように心がけている。」と書き加えています。安岡先生ほどの人物でも悩んだり苦しんだりすることがあるんですね。そんな時、ご自分で作った六中観を眺めて心を落ち着かせておられたわけです。

では六中観について、昭和 38 年の元旦に先生ご自身が書かれた解説をもとにお話を致します。六中観には色々な解説がありますが、ご自分の体験にあわせてお考え戴くとよろしいでしょう。

忙中閑有り

真の閑は、忙中にしか生まれない。朝起きて、だらだら過ごして1日が終わってしまったとします。それは閑とは言いません。心に安らぎを得る本当の閑は、目が回る程忙しい、ありとあらゆる問題をてきぱき処理しているような忙しさの中で作り出す時間です。

私の場合、娘と母親にお線香をあげて、それが燃え尽きるまでのほんの僅かな時間は忙中の閑になります。とても忙しく動いて、周りがどうやって時間を作っているのかと思うような中で生み出す僅かな一時、それこそ英知が生まれる時間であり、その時間を活かしましょう、とお考え下さい。

苦中楽有り

安岡先生はおもしろい解説をしておられます。ご本人がじんましんになって痒くて痒くて仕方がないので、真夜中に薬湯に入った。そうすると痒いところがキュッと引き締まって、とても気持ちが良かった。「この刹那の快感は心魂に徹した」と書いておられます。安岡先生も人間だなと感じます。

苦しくて苦しくてどうしようもない時は、苦しみの中にどっぷり浸かると、そこから苦しみがふっと無くなるようなものに出くわすものです。苦しみから逃げ回るのではなく、真正面から立ち向かいなさい。苦の先には必ず楽しみがあり、楽しみの中には苦が待っているとお考えなさいということです。

死中活有り

安岡先生は「のらくら生きていて何の人生か」と書いておられます。窮地に陥って、もう死に所だと思う。覚悟をすると、そこから道が開けるものです。例えば、借金を抱えて目の前に死神が来る。自分が死んで保険金で周りを助けようと思うと、もう死ぬことしか考えない。そんな時に、誰かがふっと手を差し伸べてくれれば、死なないで済みます。死神を意識して、それを乗り越えた後は強いです。

壺中天有り

忙しく駆けずり回っていると擦り切れますから、どこかで自分のホッとする場所・ホッとする人、居場所を作られるとよろしいでしょう。何か趣味を持ちなさいということです。自分自身にとって有意義で、良いなあと感じるもの、そしてそれが学ぶことに繋がっていれば素晴らしいですね。

意中人有り

内閣総理大臣に指名されたら、誰をどのポストにつけるか最初から腹に決めておく。予め人材を用意するという説明の他に、安岡先生は、「主人が亡くなったら再婚を申し込んでくるような人が二人や三人いなければ、何の女よ」とも書いておられます。

腹中書有り

六中観の根幹はこの「腹中書有り」です。安岡先生は、知識は頭の中だけでは薄っぺらである。現実には体験をして考えを深めると、肚が出来る。肚が出来ると人物が出来る。日本の国の命運を左右する、或いは自分の事業の命運を左右するのは、肚が出来ているかどうか、つまり人物かどうかが命運を分けるという解説をされています。

具体的な事例として、日本に進駐したマッカーサー元帥が吉田茂首相との会談の時に、昭和の将軍は、明治の将軍たちに比べて非常に品格が落ちているように思う。なぜ誰が考えてもお粗末な戦略をとったのか」と聞いたという話を挙げています。マッカーサーの問いに吉田茂は答えられなかった。そこで哲学者の和辻哲郎に同じ質問をぶつけたところ、昔の将軍は知識の上に肚が出来ていた。肚が出来ている人間は、自分の命を懸けて決断をし、行動する。ところが今の将軍たちは肚が出来ていないがために、自分の命を懸けるところでたじろぐ。怯えて判断を間違える。これが日本の負けた理由であると答えた。

昔の将軍は人物が出来ていた。それは古典・歴史に学んだからです。だから「腹中書有り」は大事である、と安岡先生は言っておられるのです。

牛尾治朗さんの話は以前にご紹介しました。牛尾治朗さんは父親が安岡先生と親交があった。大学を卒業する時に父親から、安岡先生の所に行って社会人の心構えを聞いて来いと言われ、渋々会いに行ったそうです。そこで牛尾青年は、「私はこれから世の中に出て、人さまの役に立つことをしたい」と滔々と述べたそうです。安岡先生はじっと聞いていて、「*to do good* (何かをやりたい) を考える前に、*to be good* を目指しなさい (自らを磨きなさい)」と言われた。つまり、知識を身に付けるのではなく、肚を練りなさいということです。学んで人間を磨いて人格を作りなさい。それが出来て初めて、人さまの役に立つことが出来るのだと教わったわけです。牛尾治朗さんはその時のことを「落雷に打たれたようだ」と言っています。

恒例の質問

では、恒例の質問に参りましょう。

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方

嘘をつかないと、気持ちが楽です。商売をしていると、どうしてもリップサービスをしがちです。しかし、心にもない営業トークを言うと、後が大変です。嘘をつかないで仕事をしていくのが良かろうと思います。

○ 昨日一日、良い日だったと思う方

○ 昨日一日、有難うと言ひ、有難うと言われた方

何かをしてあげないと「有難う」と返って来ません。歳をとって、知らず知らずの間に

自分がそっくり返ってしまうと、有難うと言われることが少なくなります。私はひと月に一度「シェフの日」を決めて、朝昼晩の三食、妻のために料理を作るようにしましたから、妻から有難うと言われることが多くなりました。前回は鯛めしと切干大根、ひじきの煮物等、妻に作り方を教わりながら作りました。

- 昨日、又は今朝、健康法を実践した方
- 昨晚、明日を過去形でイメージして寝た方

少しずつイメージ出来た方が増えました。明日を過去形でイメージして寝ることを覚えた方は、小金持ちくらいにはなれます。この実践法は東洋にもありますし、西洋ではマーフィーやカーネギーの話しに出て来ます。ちなみにカーネギーの墓碑銘は、「自分より優れた能力を持つ人々を集める術を知る人間、ここに眠る」だそうです。自分より優れた能力を持つ人々を集める術を知る人間とは、明日を過去形でイメージ出来る人ということです。

- 自分磨きをしている方

自分磨きは、陽明学で言えば事上磨練です。この質問を暫くお聞きしてから、どうやって自分磨きをしているか、お話しして貰おうと思っています。

では最後に天風先生のクンバハカの練習です。少し違ったやり方をしましょう。女性の方が多い場で肛門を締めるというのは言いづらいですから、ヒップアップでお尻をキュッと上げるようにします。そうすると肛門が締まります。その時に意識して胸の筋肉を緊張させます。するとお腹も引き締まります。鏡に映してやってみると、胸と腹と尻の筋肉が一緒に動くのが分かります。結果として、長生きに繋がります。

知足

中斎塾フォーラム基本哲学は「知足」です。仕事をする上において、或いは家庭の切り盛りもすべて、「足るを知る」(ほどほど)でやってゆけばよろしい。「足るを知る」という考え方は、これから生きていく上でとても役に立ちます。もっと欲しい、もっと欲しい…そんなこと出来るはずがありません。会社も右肩上がりですと伸びていくことはあり得ません。もう、資本主義社会は終わりです。儲けよう儲けようという世の中は終わっていますが、それが世の中に分かるのには何十年かかかるのだと思います。早ければ10年以内に分かります。

アベノミクスが失敗して、いずれ世界恐慌が起きます。その時に、自給自足体制で行かなければいけない、これははっきりしています。そうなった時に、右肩上がりですと会社経営をしている所は危ない。循環型経営をしている所は生き残ると思っています。家庭にあっても、防腐剤がたっぷりの美味しいものばかり食べているようでは、そう長くは持ちませ

ん。ほどほど、腹六分目くらいの胃袋になっている人達は、良い人生が送れます。

国によって言葉は変わりますが、「足るを知る」という基本哲学を持つ国々、会社（グローバル企業）が生き残っていくのだろうと考えています。もっともっと儲けたいという気持ちがあると、奈落の底に落ちていくとお考えください。

論語の視点

では論語の解説を致します。本日は子路篇 25～27 です。

【二五】子曰く、君子は事え易くして、説ばしめ難し。之を説ばしむるに道を以てせざれば、説ばざるなり。其の人を使うに及びてや、之を器にす。小人は事え難くして、説ばしめし易し。之を説ばしむるに道を以てせずと雖も、説ぶなり。其の人を使うに及びてや、備わらんことを求む。

孔子が言うには、君子は公正で思いやりがあるので仕えやすい。けれども心から喜ばせるのは難しい。なぜなら君子は、正当な道で喜ばせなければならぬからだ。君子が人を使う場合は、その人の能力にあわせて使うので、容易に役目を果たすことができる。

小人物は機嫌がころころと変わるので、その下で働くのは難しい。けれども喜ばすことは簡単である。なぜなら小人物は、不正な手段であろうが何であろうが、目的を達成さえすれば喜んでくれるからだ。小人物が人を使う場合、通常、適材適所で用いないので、全ての要求を満たすことはできない。

会社・社員を伸ばす社長（君子）と潰す社長（小人）の違い、ご自分の会社、或いは周りの会社を考えて下さい。

うちの社長はいつもニコニコして機嫌が良くて話しやすい。けれどなかなか喜んでくれない。社長を喜ばせたいと思って、高い利益率で物を売っても、倫理道徳を守っていなければ喜ばない。・・・こういう社長の下では、社員もまともな仕事をするので、その会社は順調に伸びるでしょう。

一方、商道徳を無視して利益に走っている社長は、いつもイライラして機嫌をとるのは大変だ。けれども目先で儲けていけばよいので、喜ばせるのは簡単である。・・・こういう会社は、目先は良くても、10年先には会社が傾いてしまうでしょう。

政治家で考えましょう。今、アベノミクスはあちこち金メッキが剥がれて来ています。破綻しているにも関わらず、表面だけニコニコして「経済は順調です。大企業は10兆円の利益を出しているから、アベノミクスは成功です。そのうち中堅・零細にも恩恵がいく

でしょう…」などと、ごまをする官僚連中がいる。それをまともに受けて本気になるようであれば、安倍さんは小人ということですね。

安倍さんは今、相当イライラしていると思います。安倍さんの動静はずっと追いかけていますから。注射をしながら身体をもたせているようですが、だんだん副作用が出てくるでしょう。そういった情報は、日本の中には出ません。先日、木内孝顧問にお会いした時、「日本に居ては、日本の正しい情報は入りません。日本の正しい情報をとりたいたいと思う私の友人達・ジャーナリズムの人達は今、オーストラリアや香港、シンガポールといった国々に行って日本の正しい情報を仕入れています」と言っておられました。

ですから、アベノミクスは破綻しているということが世の中にはっきり出る（私はもう出ていると思っていますが）のは、あと数か月かかるだろうと思っています。もう危ないと思うから、安倍さんの次は誰だという下馬評が出て、あちこちで狼煙があがっています。再選されるかどうか相当バタバタするでしょうし、途中で病気でひっくり返る可能性もあります。もしもそれが上手く続いたとしても、年内持ち越すのは大変でしょう。アベクロミクスの黒田日銀総裁が、国債はもう守りきれないと万歳の意思表示をしたわけですから、年が越せるかどうかは鍵だろうと私は考えています。

一国の総理大臣が「小人は事え難くして、説ばしめし易し」とばかり、周りの官僚や政治家が皆こういう動きをしているわけです。いつまでもつか、ハラハラしながらもの見える人は見ている、というのが現状だと思います。

論語はくれぐれも現代の政治・社会、自分の会社や家庭に置き換えてお読み戴きたいと存じます。

【二十六】 しいわ子曰く、くんし君子はたい泰にしておご驕らず。しょうじん小人はおご驕りてたい泰ならず。

孔子が言うには、君子（素晴らしい人物）は悠然としているけれども、偉ぶったりしない。小人物は、偉そうにしているけれども、気持ちが忙しなくてイライラしている。

見た目にゆったりしている人は人物で、イライラして近寄りたくないような人は小人物だと思えばよろしいでしょう。

会社経営であれば、君子を社長に読み替えて下さい。社長になったらゆったり構え、自分の動作は余程気をつけなければいけません。ゆったりした気持ちにならない場合でも、ゆったり見えるような動作を心掛けましょう。10年続けていれば、自然とそうなります。そして、決して偉ぶってはいけないし、知らないことを知ったかぶりしてはいけません。

どうも忙しく動いてしまった、偉そうなことを言って威張ってしまったと思ったなら、自分は小人物だと周りから見られている、氣をつけなければいけないなど考えればよろしいでしょう。

【二十七】子曰く、剛毅木訥は仁に近し。

孔子が言うには、仁に近い性質は剛毅木訥である。

「仁」が論語の中で最高のものの考え方だと言われていますが、孔子は、「仁」は分からないから、剛毅木訥を目指しなさいと言っています。

「剛」は強くて無欲な人物。「毅」は果敢な人物。「木」は質朴、正直で飾りのない人物。「訥」は訥弁です。この四つが備わっている人物が、「仁」に一番近い人間と言えましょう。「剛毅木訥」と「巧言令色」は対の言葉になります。

ちなみに、三島中洲は三島毅という名前ですが、その名付け親は師である山田方谷です。山田方谷は、同じく明治の三大文宗の一人である川田甕江に、「剛」と名付けています。

時事評論

最後に新聞の見方を申します。何度も申し上げていますが、新聞を見る時には3つの視点で見ましょう。自公政権の打つ手をしっかり見続けること。国債の動向を見ること。自然災害を見ること。その視点で見ると、新聞の見方が変わってきます。

自公政権の打つ手で申しますと、亡くなった元日銀総裁の三重野さんは「日本はハイパーインフレが起きるに決まっている」と言っておられました。それはいつ頃かとお聞きしましたら、「日本の社会の動き、アメリカの動向を見れば分かるよ」と言っておられました。そこら辺を踏まえて見てみますと、今朝の日経新聞に次のような記事がありました。

・マイナンバー 自治体走る

10月には皆さんの元にマイナンバーの通知が行きます。マイナンバーとは何か。これは税金を確実に取るための制度です。

新聞を読む時には、あちこちに散らばっている情報を見て頭の中に入れておくと、ある日突然それらが融合して、政府のやっている、又は隠している方向が透けて見えます。

・アジアインフラ投資銀行 中国と欧州で発言権で火花を散らす

アメリカの力がなくなったので、中国が今、のさばって来ています。A I I Bは中国が自分の思い通りの銀行を創って、自分の領地を拡大しようとしているわけです。出資金を巡って今、欧州勢が入って火花を散らしているというのは、中国がこれ以上やると危ない

から、お互いに主導権争いをしているのです。これは、言い方を変えれば、アメリカとロシアの代理戦争です。両方が共倒れになる頃を見計らい、中国がアメリカとロシアを押しつけて世界の覇権を握ろうとしている図柄です。

お時間になりました。本日の講話を終了致します。有難うございました。